

我が大教スポーツ

氷を砕け! 灼熱の思い!

大教体育会に「シーズンオフ」は存在しない。春夏秋冬と熱い輝きを見せた各部に続き、冬からいよいよ彩りを増す運動部活動の勇躍も決して見逃さない。今号の特集ではそのなかでも「一騎当千」と言わしめるほどに部員が躍動し続ける冬本番の運動部に鋭意クローズアップ!!

雪上を滑走!!

スキー部の躍動

「ジュニアあり」



合宿で共に活動するスキー部員たち(新潟県池の平スキー場にて、後列一番左が松崎さん)

な仕事を任せてもらって成長の糧にするというメリットをまずは挙げたいですね。

——OB OG会の存在も大きいのですが、スキー部の所属人数には増減の波がありますが、少人数の時期は大変な難いことにOB OG会からも手厚い応援をいただいています。例えば我々スキー部は長野県で冬合宿を行う際には自炊ですが、お米や食べ物の差し入れをいただくなどのサポートをこれまで頂戴しました。こうしたネットワークを通じた支援と、先に述べた責任ある仕事を早くから学ぶことで実践的な経験を数多く積める背景もあり、部員全員が意欲的に活動しています。

今年度の大教スポーツのコンセプトは「ポットライト」。少人数ながら充実した活動を行う部活動に焦点を当てている。そのなかでも遠距離まで合宿を敢行し、OB OGとの絆も強いスキー部はまさに「スポットライト」を浴びるにふさわしい。その充実の秘訣について、スキー部主将の松崎涼真さん(学校教育員養成課程小中教育専攻社会科教育コース3年生)にお話を伺った。

——日々の活動をしっかりと頑張れる秘訣や、活動の支えとしてきたものについて教えてください。

少人数で活動する部活のメリットとして、まず先輩後輩の心理的距離が近く、良好な関係が築きやすいですね。また部内の役割である

——新入生や在校生に一言お願いします。

スキーというスポーツは冬しかできません。スキー部の合宿は長期にわたるので、大学時代にしかできない経験がたくさんあります。全員で自炊をしながらの冬合宿では、年越しのグレンデにもすごい花火が上がるんですよ。スキー部の活動のなかでこうしたイベントに出会ったり、同じ部員と切磋琢磨したりというのも大学での活動ならではです。特にスキーは大学から部活動として始めるにしてもどの大学も未経験者が多く、平等な立場を感じながら試合に臨めるのはメリットかなと思います。付け加えて言えば、長期合宿や遠征ならではの楽しみもありますね。活動として青森県まで行って滑ることもありますが、ご当地の美食に舌鼓を打つこともある(笑)。昔と比べて忙しくなったとはいえ、そこはやっぱり大学生ですから豊富な自由時間を充実させるにスキーは持っているスポーツです。今述べたように未経験者も輝けるチャンスはたくさんありますので、ぜひ入部希望をお待ちしています。

大阪教育大学フィギュアスケート部の部員は2024年現在、わずかに2人。しかしその2人は積極的に試合に出場して次へつなげる成績を挙げ続けるなど特徴的な存在感を放っている。今回はそのフィギュアスケート部の未来を担う藤井泉綺さん(学校教育員養成課程小中教育専攻国語教育コース2年生)にその活動についてお話を伺った。

——フィギュアスケート部の特徴や強みについてお聞かせください。

私たちは少人数の部活なので、普段は大阪大学のフィギュアスケート部と共に活動しています。また、夏の間も一年中開いているリンクで練習をしています。フィギュアスケートは音楽に合わせてプログラムを氷上で踊るスポーツで、本番は観客の視線を一人で浴びるので緊張しますが、それ以上に競技の楽しさが勝ります。

部活の強みは上下関係の規律のなかでも仲が良く、OBやOGの方たちがよく練習に参加してくださる点です。メジャーではないスポーツだから信頼関係のなかで私はフィギュアスケートを始め

こそ、様々な人と深くかわることができると感じています。本番や練習の時には同じ大学だけでなく、他大学の選手にも「ガンバ!」と言ってお互いに応援を交わすときは充実を覚えます。また大会で氏名を呼ばれるときに大学名も併せて呼ばれますが、部員が少ないだけに大会会場に響く「大阪教育大学」に特別感を感じたときです。最後に所属する部活名を聞かれた際に「フィギュアスケート」と答える時、自分がこの競技部の選手なのだと思ってしまうくらいです。

——部活を通じて得た経験にはどんなものがありますか。

大学入学から本格的にフィギュアスケートを始め



大会後に2人でポーズ(左が三浦さん、右が藤井さん)

ギュアスケート部の一員として頑張ることができています。

——フィギュアスケート部に入って良かったと思う瞬間はどんな時ですか?

大会前にたぐさんの応援がもたらさる時です。本番や練習の時には同じ大学だけでなく、他大学の選手にも「ガンバ!」と言ってお互いに応援を交わすときは充実を覚えます。また大会で氏名を呼ばれるときに大学名も併せて呼ばれますが、部員が少ないだけに大会会場に響く「大阪教育大学」に特別感を感じたときです。最後に所属する部活名を聞かれた際に「フィギュアスケート」と答える時、自分がこの競技部の選手なのだと思ってしまうくらいです。

——部活を通じて得た経験にはどんなものがありますか。

大学入学から本格的にフィギュアスケートを始め

ですが、楽しみな気持ちと同時に恐怖心もありました。新しい技に挑戦してもなかなか習得できないこともありましたが、新しいことに挑戦する大切さをも学びました。

——フィギュアスケートではどんなトレーニングに取組んでいますか?

まずは筋トレや体幹トレーニング、縄跳び、それから陸上でのジャンプ練習など主に陸上トレーニングを通じて、スケートにとって大切なバランスを鍛えています。

——今後の抱負をお聞かせください。

今後の大会において練習の成果を発揮し、良い結果を残してフィギュアスケート部の存在をアピールしたいです。個人の目標としては技術向上と、より上位の等級の取得です。先輩やOBから積極的に学び、アクトセルジャンプやダブルジャンプに挑戦し、上位入賞を目指します。

勝利に向けた美の創造!

フィギュアスケート部!!

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

大教スポーツ

令和7年3月25日(火) 13号

発行 大阪教育大学体育会/編集長 林洋輔(保健体育部門准教授)

編集員 神田浩平(理科教育コース3年生男子ラクロス部)、北郷花音(社会科教育コース3年生モダンダンス部)、下代奈穂(スポーツ科学専攻2年生モダンダンス部)、濱松さくら(スポーツ科学専攻2年生体操競技部)、高瀬寛太(理科教育コース2年生男子ラクロス部)、坂口和奏(養護教諭養成課程2年生女子ラクロス部)、石山陽菜(美術表現コース2年生弓道部)、木村颯太郎(教育心理学専攻2年生弓道部)、瀧原優斗(数理情報コース2年生空手道部)、永井真優(自然科学コース2年生合気道部)、内村望(スポーツ科学専攻2年生体操競技部)、藤井明香(国語教育コース2年生合気道部)

2面 令和六年度 主な成績・活動一覧 / 体育会活動紹介

3面 学長杯団体賞 / 学長杯個人賞 / 令和六年度体育会学長杯受賞者・団体一覧

4面 我が体育会(第13回)榎木泰介先生 / 編集後記

令和六年度 主な成績・活動一覽

※成績の①=1回生、②=2回生、③=3回生、④=4回生、M1=大学院1回生、M2=大学院2回生

部活名	大会名	成績	部活名	大会名	成績
ラグビー部	関西大学ラグビーリーグ	Bリーグ8位	体操競技部	セノーチャレンジカップ	男子個人総合28位 内村惺②
男子サッカー部	第102回 関西学生サッカーリーグ 2部	2部 7位		第7回関西学生体操大会	女子個人総合25位 濱松さくら②
女子サッカー部	関西学生女子サッカー春季リーグ	2部4位		第56回関西学生体操新人選手権大会	女子個人総合17位 佐々木花①
	関西学生女子サッカー秋季リーグ	2部2位	柔道部	第74回関西学生柔道優勝大会	団体ベスト8
アメリカンフットボール部	関西学生アメリカンフットボールリーグ	3部Bブロック2位(2部昇格)		第32回関西学生女子柔道優勝大会	団体準優勝
男子ハンドボール部	関西学生ハンドボール春季リーグ戦	2部7位		第73回全日本学生柔道優勝大会	団体ベスト32
女子ハンドボール部	関西学生ハンドボール春季リーグ戦	2部2位		全国国立大学柔道優勝大会	団体3位
	関西学生ハンドボール秋季リーグ戦	2部2位		全日本学生柔道体重別選手権大会	73kg級 宮下真八 3位
硬式野球部	春季リーグ戦	1勝1分8敗 2部6位	水上競技部	第75回 関西国公立選手権水泳競技大会	男子団体 総合2位/女子団体 総合6位
	近畿学生野球連盟 春季入替戦	1勝2敗(3部降格)		第98回 関西学生選手権水泳競技大会	男子団体 2部6位/女子団体 2部7位
	近畿学生野球連盟 秋季3部リーグ戦	2位		第71回 全国国公立選手権水泳競技大会	男子団体 8位
準硬式野球部	阪神六大学準硬式野球春季リーグ戦	優勝(2年連続24回目)		第100回 日本学生選手権水泳競技大会	200m自由形 32位 松本和華①
	第76回 関西選手権大会	4位		ジャパンオープン2024	100mバタフライ 38位 生部悠樹④
	阪神六大学準硬式野球新人戦	1勝1敗		2024CMAS 18th World Cup Finswimming Indor Golden Final	50mサーフィス 30位 大塚悠智④
	阪神六大学準硬式野球 秋季リーグ戦	総合5位	男子ラクロス部	KANSAI LACROSSE OPEN	1勝2敗
	第42回全日本大学9ブロック対抗準硬式野球大会	準優勝		第34回関西学生ラクロスリーグ戦	3部4位
	第3回全日本大学準硬式野球東西対抗日本一決定戦甲子園大会	準優勝	女子ラクロス部	関西ラクロス交流戦	6勝10敗
男子バレーボール部	関西バレーボール連盟 春季リーグ戦	3部4位		第34回関西学生ラクロスリーグ	3部Bブロック3位
女子バレーボール部	関西バレーボール連盟 秋季リーグ戦	3部4位		関西学生新人戦ウィンターステージ	1勝2敗
	関西大学バレーボール連盟秋季リーグ	3部8位 4部降格	フィギュアスケート部	第7回 八大学交流戦	1級クラス女子5位 藤井泉綺②、2級クラス女子9位 三浦示早④
男子バスケットボール部	第42回大阪学生バスケットボール選手権大会	ベスト12		第2回 近畿学生氷上競技選手権大会	1級女子10位 藤井泉綺②、2級女子14位、三浦示早④
女子バスケットボール部	関西学生バスケットボールリーグ戦	2部3位	剣道部	第58回 全日本女子学生剣道選手権大会	出場 大西萌絵④、米村咲歩②、弓矢小都②
	関西女子バスケットボールリーグ戦	2部10位		第54回 関西女子学生剣道選手権大会	3位 大西萌絵④、ベスト8:米村咲歩②、ベスト16:弓矢小都②
陸上競技部	第72回 大阪学生陸上競技対校選手権大会	女子団体 1位		第72回 関西学生剣道優勝大会	男子団体 ベスト8
	第101回 関西学生陸上競技対校選手権大会	男子1部十種競技 1位 吉門宏祐(M1)/女子400mH 2位 原佳奈穂④/女子400mH 3位 辻井美緒(M2)/女子走高跳 3位 苅谷真奈②		第72回 全日本学生剣道優勝大会	男子団体 2回戦進出
	第108回日本陸上競技選手権大会	女子400mH 7位 辻井美緒(M2)		第4回 若木杯関西学生剣道大会	女子団体 優勝
	第77回西日本学生陸上競技対校選手権大会	女子400mH 3位 原佳奈穂④		第18回全日本学生剣道オープン大会	女子団体 5位
	第21回田島直人記念陸上競技大会	女子400mH 3位 辻井美緒(M2)	空手道部	第57回 日本空手道糸洲会全国選手権大会	一般女子有段形 優勝 田辺さくら④ 一般男子有段形 準優勝 上山匠人① 一般女子組手 準優勝 衣川夏葵② 一般男子有段組手 優勝 樋口新① 一般男子有級組手 準優勝 川脇顕志①
	天皇賜杯第93回日本学生陸上競技対校選手権大会	男子棒高跳 8位 中島央人(M1)/男子十種競技 8位 田中陽介(M1)/女子400mH 8位 辻井美緒(M2)		第45回全国国公立大学空手道選手権大会	女子個人形 3位 田辺さくら④
	2024関西学生陸上競技種目別選手権大会 兼 第46回関西学生混成選手権大会	男子800m 2位 前田充輝①/男子800m 3位 嘉本容己④/男子5000m 2位 吉田健太郎④/男子十種競技 優勝 田中陽介(M1)/男子十種競技 3位 内藤源一郎(M1)/女子400mH 3位 原佳奈穂④/女子走高跳 優勝 苅谷真奈②/女子棒高跳 優勝 山岸朱里③	ソフトテニス部	全国教育大学ソフトテニス大会	男子個人 伊藤・酒井ペア 優勝、杉本・網本ペア 3位/男子団体 大阪教育大学A 優勝、大阪教育大学B 準優勝/女子団体 優勝
バドミントン部	関西学生バドミントン春季リーグ戦	女子3部1位 男子3部8位(4部降格)		近畿国公立ソフトテニス大会	男子団体 優勝/男子個人 伊藤・網本ペア優勝、杉本・酒井ペア 準優勝/女子団体 優勝
	第49回 近畿国立教育系大学バドミントン選手権大会	男子団体 3位 女子団体 優勝	硬式庭球部	2024年度 関西学生春季テニストーナメント	女子ダブルス 今井・兼田ペア ベスト16
	関西学生バドミントン秋季リーグ戦	女子3部2位(2部昇格) 男子4部1位(3部昇格)		2024年度 関西学生チャレンジテニストーナメント	女子ダブルス 野村・前田ペア 優勝
	大阪学生バドミントン選手権大会団体の部	女子2部1位		関西学生テニス選手権大会	女子シングルス ベスト32 野村美晴① 女子ダブルス 今井・兼田ペア ベスト16
卓球部	令和6年度関西学生卓球春季リーグ戦	女子3部準優勝/男子4部Aリーグ2位		関西大学対抗テニスリーグ	男子4部1位(3部昇格)/女子2部3位
	第64回全国国公立大学卓球大会	女子団体A 第6位/女子シングルベスト16 相場菜月②/女子ダブルスベスト16 相場菜月②・相場晴日①	弓道部	令和6年度 関西学生地域テニストーナメント(大阪・和歌山・奈良)	女子ダブルス 野村・前田ペア ベスト4 女子シングルス 準優勝 野村美晴①
	第64回全国教育(学芸)大学卓球選手権大会	団体4位		第40回 全国教育系大学弓道選手権大会	女子個人 春田奈緒① 準優勝、三村歩未② 5位/男子個人 浦志直央② 4位/男子団体 準優勝
	関西学生卓球秋季リーグ戦	男子4部2位 女子3部A第3位	モダンダンス部	All Japan Dance Festival in kobe 2024	団体 出場
体操競技部	第66回関西学生体操選手権大会	女子個人総合24位 住藤ひなた④/女子個人総合28位 坂本優奈②/男子個人総合23位 内村惺②		第36回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)	出場
	第78回全日本学生体操選手権大会	女子個人総合42位 坂本優奈②	合気道部、L.S.B.、山岳部、スキー部		特になし

会長と幹部、スポーツ祭の知られざる内幕を熱く語る!!

会場には賑やかな声が飛び交っていた。サブ、レシーブ、トス、スパイク。一つのプレーが決まるたびに参加者そして応援の学生から歓声と悲鳴がこだまする。コロナ禍を乗り越え復活したスポーツ祭はその活力を取り戻し、毎年の行事として再びこの季節が到来した。本紙では準備運営としてのスポーツ祭を支えた体育会会長の山上億大さん(学校教育教員養成課程小中教育専攻国語科教育コース3回生)、そして体育会事業部副部長を務める天野倫さん(学校教育教員養成課程小中教育専攻学校教育コース2回生)にお話を伺った。

——なぜ今回はスポーツ祭の種目としてバレーボールを選択したのでしょうか？

天野 今年度春季のスポーツ祭ではドッジボール、また前年度秋がフライングディスクを用いた団体競技「アルティメット」、さらにその前は障がいをお持ちの方でも楽しめる球技の「ポッチャ」でしたが、参加者が伸び悩みました。そのため今回の開催種目を検討した際、友人から「バレーボールがしたい」という率直な意見があり、また僕もバレー部部長を務めたこともあって学生人気や用具・施設管理も行きやすいことが決め手となってバレーボールに決定しました。

山上 開催種目を選ぶ理由として「誰でも参加できる種目」が念頭にありました。ただバレーボールは人気種目であり、「みんながゼロから一緒に楽しめるものを」という我々の前提とに折り合いをつけるかとの課題に直面しました。そこで今春は新たなスポーツ種目を、と提案したのですが参加者は頭打ちでした。この問題について天野君の方から「バレーボールはどうですか？」と提案もありましたが、参加者の経験差という懸念は消えませんでした。ただバレーボールはこの学生にも認知されていること、また技能の差も参加者に配慮を期待することで今回はバレーボール開催でも良いのではと考えました。

——バレーボールの経験者と未経験者で差が出ないルールの工夫を教えてください。

天野 バレーボールではチーム6人で戦うという基本ルールがあるのですが、「サークル活動などで1年以上バレーを経験済みの学生は、コート内に2人まで」との制限を設けました。また選手の移動や交代ローテーションを工夫し、スパイクを打てる経験者が同時に2人以上コート内にいないようにと工夫しました。

——今後のスポーツ祭の開催について、どのような展望を抱いていますか？

山上 コロナ後のスポーツ祭も暗中模索が実情ですので、様々な課題やその解決策を今も思案しています。スポーツ祭の開催時期は体育会の運動部活動ではシーズン中と重複していることもあり、体育会関係者を誘うだけでは参加も運営も難しい部分があります。これからも広く体育会以外の学生にこのスポーツ祭の活動や魅力が伝わるよう広報をさらに発展できたらと思っています。



インタビューに応じた山上さん(左)と天野さん(右)

本命か、悲願か!? 令和六年度学長杯が決定!!

学長杯 団体の部受賞 準硬式野球部

学校教育員養成課程 社会科教育コース 松尾知弥選手にインタビュー

昨年引き続きの受賞だったので、先輩方と同じように結果を残せたというのが凄く光栄に感じています。

今年度については、2年連続でリーグ優勝できたというところが一番スポットライトを浴びていたというのと、関西選手権に進出して関西4位まで進出したことが特に脚光を浴びた瞬間だと思います。



清瀬杯第56回全日本大学選抜準硬式野球大会にて

ます。

普段は週3回で練習をしているのですが、モチベーションを上げることに特に力を入れていて、練習メニューを効率化したりマンネリ化しないように工夫したりして、練習が始まる前に数人ごとに異学年の班を作って今日の練習は何を意識するか、どういう事に取り組みかについて考えること、また練習後には練習前を受けて今日は何ができたかというのを日替わりで班を変えながら異学年でコミュニケーションをとるように努めたのがモチベーションアップにつながったと思います。

昨年度の勢いで二連覇する事と、全国大会に出場することがまずは目標でした。目指すべき全国大会が二つあるのですが、僕たちが出場した一方の選手権では準優勝を果たしたもので、次は他方のよりハイレベルの全国大会での躍進を目指します。

また3年生は教育実習があるので秋リーグには1年生と2年生で臨みますが、チーム事情を踏まえながらチーム一丸となって戦っていったのが良かったのかなと思います。

後輩たちにはリーグ三連覇を目指してもらって、もう一つ上の全国大会に出場できるように頑張ってもらいたいと思います。

松尾知弥選手

学長杯個人の部受賞 準硬式野球部 学校教育員養成課程 小中教育専攻 社会科教育コース

学長杯は昨年度も準硬式野球部の主将が受賞されていたこともあり、憧れがあったので自分も学長杯個人賞に選ばれたことをすごく光栄に感じています。

今回の「大教スポーツ」コンセプトである「スポットライト」との関係で今年度の成績を振り返るなら、春季リーグにおける打撃タイトルをすべて獲得できたこと、甲子園で行われた大会に西日本選抜の一員としてスタメンで出場できたことがすごく自分自身、脚光を浴びた機会であると思います。

大学で行う準硬式野球はボールの周りがゴムでできていたり、金属のバットを使ったりするので、高校野球経験がないようなさまざまな人でも練習を通して活躍できるというのが競技としての魅力だと思います。

振り返れば中学時代、そして高校時代と色々な野球への取り組みで結果が出ていない時が多かったのですが、大学野球は自分の中で最も活躍できて良い経験させてもらいました。特に「今はしんどいけど、この先やってよかったなと思えるように頑張っていきたい」という思考が身につ



松尾知弥選手

学長杯 団体の部受賞 剣道部

教育協働学科 スポーツ科学専攻 橋本昂(すばる)選手にインタビュー

素直に嬉しいというのが率直な思いです。去年も同じ賞をいただいたので、重圧ではないですが今年も学長杯団体賞を受賞することが出来たのは主将として一つ達成できたことかなと思うので嬉しいです。

今年度の成績を振り返ると、男子は全日本団体に出場したこと、また女子は



部内選手権にて一致団結

子は3名の全日本個人出場者を輩出したことだと思います。大阪教育大学の名を背負って関西を代表できたことは大変誇らしく思い、脚光を浴びた瞬間だと思います。

大阪教育大学剣道部の特徴としては、他大学よりも選手間の心理的距離が近い点が挙げられると思います。単に部活動中だけではなく、部活動を離れた学生生活でも部員同士が深くかわり合うことで、チームとしての実力向上につながったのが大きな強みになったと思います。

今年度、剣道部のミッションとして掲げていたのが「剣道を通して大阪教育大学の良さを全国に広める」ことであり、このミッションを一番の基礎として活動していきたく、大阪教育大学の良さを知ってもらうために活動していたことに剣道部として重きを置いていました。やはり上手いかないことも主将としてあったのですが、先生方やOB・OGの皆さん、後輩・同期など様々な方の支えがあったからこそ走りきることが出来た一年だったと思うので、自分一人の力では何もできないということを実感させられた一年だったなと思います。

大塚悠智選手

学長杯個人の部受賞 水上競技部 教育協働学科 スポーツ科学専攻

率直に嬉しい気持ちです。私が下回生の頃、水上競技部は学長杯団体賞を受賞しており、先輩方も敢闘賞などをいただいていた。その姿を見て、いつかあの栄誉を目指したいなという気持ちがあったので、受賞できて光栄です。

私は試合の出場時間が15秒から1分程であり、大きな試合は年に数回しかないのスポットライトが当たる回数は少ないです。しかし、レースが始まるとそのレースでは最大でも約8人しか泳がないので、自分が泳いで

いる時間だけはスポットライトを浴びているなど感じます。競泳とフィンスイミングが他のスポーツと大きく違うのは、水中は重力から解放されるような感覚があることで、これが一番の魅力なのだと考えています。また、記録で勝敗が決まるので結果が明確に現れる点も魅力の一つです。

この一年は、私の四年間の中で一番挑戦した年でした。競泳に加えてフィンスイミングにチャレンジしたり、競泳でも最上回生としてチーム運



大塚悠智選手

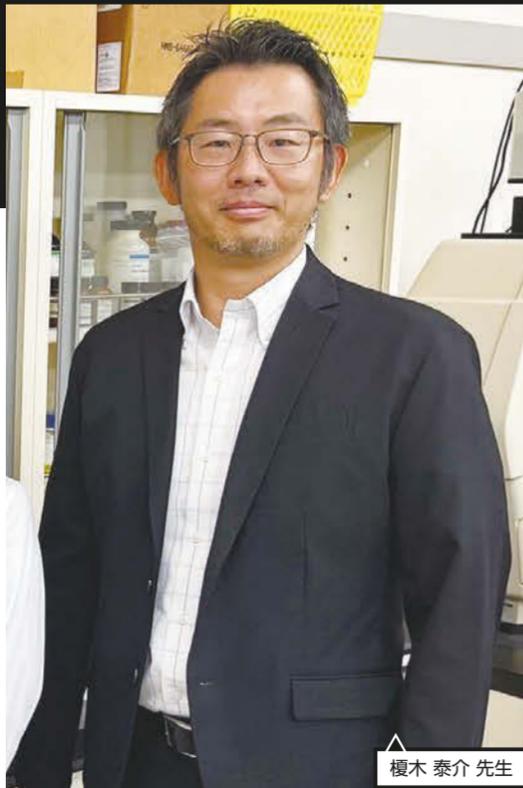
営に携わったりすることができました。挑戦の裏では色々な方々に支えていただきました。フィンスイミングを始めるにあたって本学OBの方からご指導をいただいたり、またチーム運営において様々な方から協力をいただいたり、競技を続ける中で両親にも援助いただき、その支えがあったからこそ挑戦することができたのかなと思っています。

令和六年度体育会学長杯 受賞者・団体一覧

タイトル	受賞者・団体	主な受賞理由
学長杯団体賞	剣道部	第72回全日本学生剣道優勝大会 男子団体 出場 / 第4回若木杯関西学生剣道大会 女子団体 優勝
	準硬式野球部	阪神六大学準硬式野球春季リーグ戦 優勝 / 第56回清瀬杯全日本大学選抜準硬式野球大会 出場
学長杯個人賞 (4年間の成績)	まつお ともや 松尾 知弥(準硬式野球部)	2023年度第55回清瀬杯全日本大学選抜準硬式野球大会にて主力選手として準優勝に貢献 / 2024年度阪神六大学準硬式野球春季リーグ戦 首位打者、打点王、本塁打王、盗塁王の四冠達成、優勝に貢献
	おおつか はるとも 大塚 悠智(水上競技部)	2024 CMAS 18th World Cup Finswimming Indoor Golden Final (第18回フィンスイミングワールドカップ) 男子アブニア 25位、男子50mサーフィス 30位 / CMAS 23rd World Championships Finswimming Indoor (第23回フィンスイミング世界選手権大会) 男子アブニア 25位
体育会特別賞	つじい みお 辻井 美緒(陸上競技部)	天皇賜杯第92回日本学生陸上競技対校選手権大会 400mH 3位 / 2024日本学生陸上競技個人選手権大会 400mH 4位
殊勲賞	ごとう しゅんすけ 後藤 俊介(男子ハンドボール部)	2024年度春季リーグ2部得点王 / 2022年度以降春秋の全リーグ戦にて2部リーグ得点ランキング2位以上の最終成績
	うえの さやか 上野 彩香(女子ハンドボール部)	2022年度以降春秋の各リーグ戦にて女子2部リーグ得点王を計4回達成
	おおにし もえ 大西 萌絵(剣道部)	関西学生剣道連盟総務委員長を務め、第18回全日本女子学生剣道東西対抗試合、第58回全日本女子学生選手権大会出場
体育会会長杯	みうら きさ 三浦 示早(フィギュアスケート部)	体育会役員を計3期務め、体育会運営に尽力することで他の体育会所属学生に活動の模範を示す
敢闘賞	アメリカンフットボール部	関西学生アメリカンフットボールリーグ 2部昇格
	バドミントン部	関西バドミントン秋季リーグ戦女子 2部昇格
体育会顧問 奨励賞	ふくい いぶき 福井 維吹(剣道部)	天王寺キャンパス所属ながら、柏原キャンパスでの部活動に5年間参加、第70回全日本学生剣道優勝大会に出場 / 大会出場資格のない5年生時も稽古に参加、学長杯の受賞に貢献した
	たなべ 田辺 さくら(空手道部)	第57回糸洲会全国空手道選手権大会 形の部一般有段女子 優勝 / 第43回全国国公立大学空手道選手権大会 女子個人形競技 準優勝

榎木泰介先生 (健康安全科学専攻准教授) インタビュー

我が体育会 第13回



榎木 泰介 先生

先生の学生時代には、どのようにスポーツに取り組んでおられましたか？

「小学校時代には野球、それからソフトテニス、そして高校からはアメフトに取り組んでいました。心境の変化があったのはアメフト部で活動していた時です。それまでの価値観が大きく変わるほど、昔ながらの練習とは違ったもので、部活での活動を通してテーピングや水分補給の重要性、またプロテインの活用について学んでいくものでした。そしてこの体験から人間の体について興味を持ち始め、それが進学や今の研究にもつながって

「研究活動にも活発に取り組んでおられますが、現在ご関心のある研究の内容について教えてください。」

「体内でどのようにエネルギーをつくるか・つかうか、エネルギー代謝とパフォーマンス向上についてなどを研究しています。また、健康にかかわる運動効果の研究では、病気の発症に対して身体運動がどう影響しているのか、筋肉が大きくなればエネルギー代謝がどのように変わるのかなどを、時に実験動物も使って調べています。」

「実のところ自分自身がスポーツライートを浴びた経験はあまりないので、スポーツライートを浴びるアスリートに研究やサポート活動を通じて、どのようにして後方支援してきたかお話しします。私の行った『支援』というものは、よく知られている選手の動画解析やリハビリ、トレーニングの補助というようなものではなく、もっと後ろの方です。例えば、練習中における選手の体内の変化、日々の食事や睡眠、月経周期の状況などについて、唾液や血液、尿などを採取し、分析を通じて支えています。また、コーチが日頃から思っている疑問に答えることも『支援』の大切な役割です。例えば、今行っているこの

練習方法が果たして適切であるのかという疑問に対し、収集したデータや科学的な根拠を提示することで、コーチや選手が自信を持って意欲的に日々のトレーニングに励むことができます。前職・国立スポーツ科学センターでは、センター長から『最強の黒子たれ』という心構えを受け取りました。オリンピックなどの大きな舞台で日々の努力が報われた選手の笑顔を見ると、本当に嬉しい気持ちになります。黒子にスポットライトは当たりますが、役割を果たすべく、一つ一つのきっかけにしっかりと向き合い、次の小さなステップへつなげることを常に心掛けていました。」

「大阪教育大学で指導に携わられている課外活動についてお伺いします。また、特に印象に残っていることを教えてください。」

「今は指導を後進に任せていますが、アメリカン・フットボールは試合中、時間の制限

が重要なポイントとなる競技スポーツです。普段、時間管理に緩い人は、試合で時間管理に厳しく行動できません。本番では、やはり日常が出来ます。これは学生スポーツに限らず、そう思います。特に印象に残っているのは、1部リーグへの入替戦の満員のスタンド席ですね。大教大を応援してくれるたくさんの人達がとても喜んでくれていました。アメフトでは、それぞれに任される役割が異なりますが、選手、トレーナー、分析、マネージャー、本学では全て学生主体です。試合の勝ち負けだけではなく、試合までの過程でしっかりと取り組むことが重要であり、それが伝わるからこそ、多くの方々に応援していただけたのだと思います。」

「榎木先生がご自身の心に留めておられること、そしてこれからの目標を教えてください。」

「研究室のモットーは『Stay Positive』です。ポイントには『Be Positive』ではないところ。私たちがはもともと、今日は何をしようかとワクワクするのですが、それが例えば誰かと比較したり、悩んだり、時には心配や失敗するかもといった感情に引っ張られたりもします。『Stay Positive』には、『ポジティブなまま』という意味を込めています。心身を健康に保つためにも、毎日を元気に、前向きに過ごそうという心がけが大切だと思います。目標、将来にわたってずっと続けたいことは、やはり研究です。コロナ禍で空白の三年間が生じた際、自分には何がないとダメなのかを改めて考えた時、それは研究だと思いました。現在は大学教員として、研究実験のデータ分析や学術的な考察を通じて、学生に物の見方や考え方を伝えるようにしています。」

「大阪教育大学の学生に伝えたいメッセージをお願いします。」

「いろいろなことに對して興味を持ってほしいです。何よりも自分の足で歩き、自分で試し、そして自分で経験してほしいですね。もちろん無駄になることも多いですが、その無駄も含めて大切なことです。例えば失敗したら、その方法ではだめだったということを理解する経験になります。何も得られなくても『経験』を確かに得ることができ



顧問を務めるアメフト部の活動中にて部員たちと

るし、それを活かすことで、この先の将来、学生はどんな道にも進めます。自分の足で右往左往しながら、とにかくまず経験してみる。やってみて『何が得られるのか』なんて、それほど大切なことではありません。みなさんはこれからの将来について悩むこともあるかもしれませんが、大学生活を通じて『自分は何がしたいのか』について、じっくり考えてみてください。」

編集 後記

今号の大教スポーツの編集を担当いたしました神田浩平です。

紙面構成は昨年度に引き続き部活動紹介を第一面とし、学長杯団体賞ならびに同杯個人賞の受賞記事を第3面に掲載しました。そして第4面の「我が体育会」では榎木先生のロングインタビューを特集しています。

今回の紙面づくりのコンセプトは「スポーツライト」です。部員数の減少により思うような活動ができない中でも限られた環境で工夫を凝らし、日々奮闘している選手たちがより多くの人々の目に触れ、脚光を浴びるきっかけになればと願っております。

最後になりますが、体育会広報部員やたくさんのご指導や励ましをくださった編集長の林先生をはじめ、取材にご協力いただいたすべての方々に、心から感謝申し上げます。これからも、大教スポーツをどうぞよろしくお願いたします。

学校教育教員養成課程
中等教育専攻
理科教育コース 神田浩平